

既存建物のアスベスト使用状況

(1) 目視等による調査

建物名	図面上の番号	延床面積(m ²)	使用部位	使用部材	損傷・劣化		使用面積(m ²)	
					有	無	非飛散性と考えられる	飛散性の可能性有
本館	1	2,101.5	床	Pタイル	○		400	
			地下室ボイラー	保温材	○			26
別館1号	2	993.2	床	Pタイル	○		993	
			天井	木毛セメントボード		○	993	
農産加工実験室	4	126.1	天井	木毛セメントボード		○	126	
農機具格納庫	6	130.3	外壁	セメント系スレート		○	200	
			屋根	セメント系波板スレート		○	130	
病虫害防除所	13	210.3	床	Pタイル	○		210	
			天井	フレキシブル吸音ボード		○	210	
病虫害防除所車庫	14	94.8	外壁	セメント系スレート		○	150	
			屋根	セメント系波板スレート		○	94	
農政職員控室	15	120.0	天井	フレキシブル吸音ボード		○	120	
根茎菜類貯蔵庫	16	61.0	外壁	セメント系波板スレート		○	140	
			屋根	セメント系波板スレート		○	60	
馴化温室	19	499.3	外壁	セメント系波板スレート		○	450	
			屋根	セメント系波板スレート		○	266	
合計		4,336.5					4,542	26

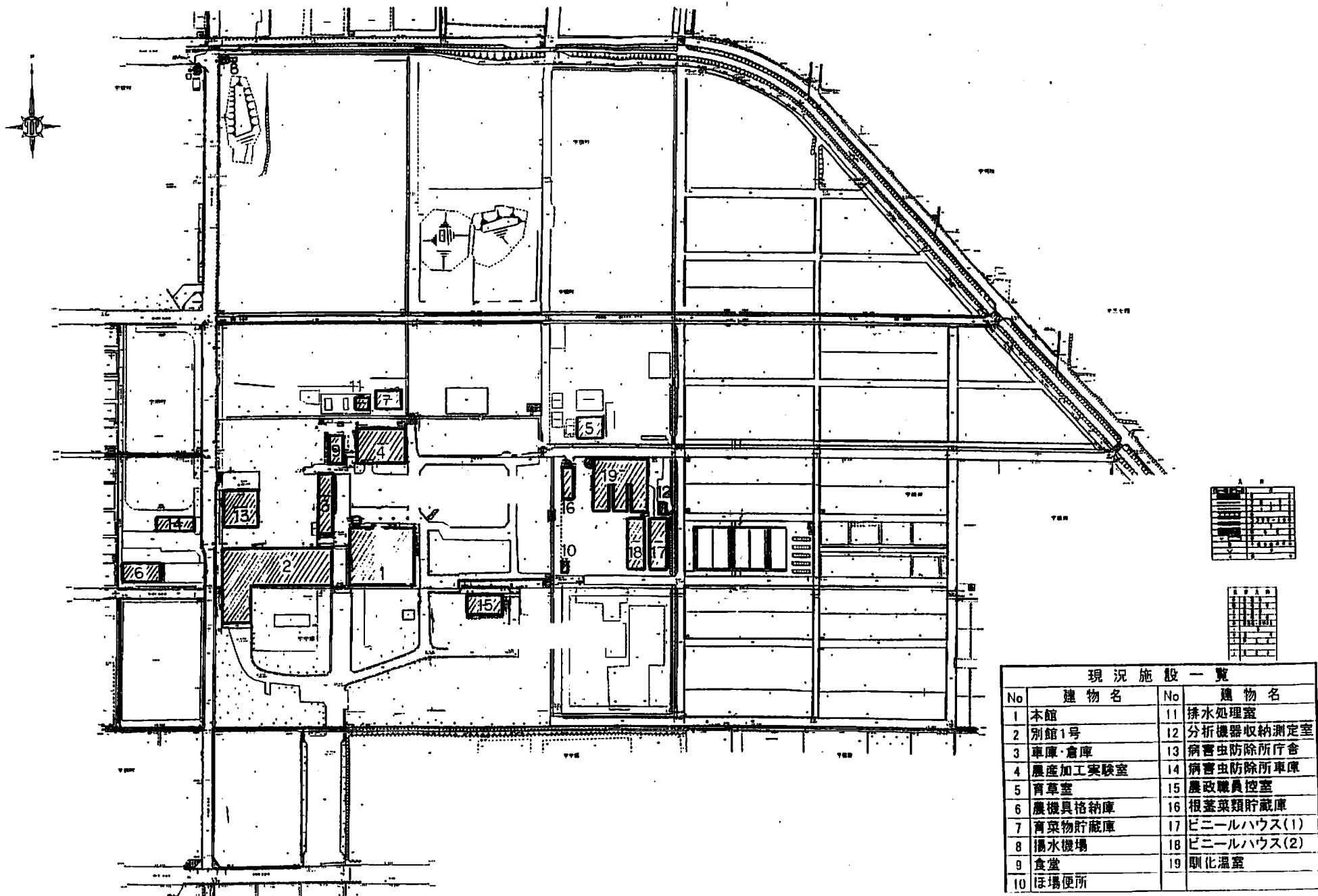
備考 本調査は、平成17年8月に県農業振興課職員が主に目視による調査でアスベスト含有の可能性のある建材等を調査にしたものであり、内容を保証するものではありません。除却に際しては、必要に応じて調査を実施してください。

(2) 分析及び大気中濃度測定調査

目視による調査で飛散の可能性があったと思われる本館地下室のボイラー保温材については、別途専門業者への委託により含有量と大気中飛散濃度を調査しており、詳細は別紙のとおりです。

旧農業総合研究所工作物等位置図

縮尺 1:1,500



No	建物名	No	建物名
1	本館	11	排水処理室
2	別館1号	12	分析機器収納測定室
3	車庫・倉庫	13	病害虫防除所庁舎
4	農産加工実験室	14	病害虫防除所車庫
5	育草室	15	農政職員控室
6	農機具格納庫	16	根莖葉類貯蔵庫
7	育菜物貯蔵庫	17	ビニールハウス(1)
8	揚水機場	18	ビニールハウス(2)
9	食堂	19	馴化温室
10	ほ場便所		

分析結果報告書

平成18年3月27日

神奈川県知事 殿

株式会社 オオスミ
 代表取締役 木手崎 武志
 横浜市瀬谷区五貫目 17
 環境計量証明機関 神奈川県 18
 作業環境測定機関 14-18
 TEL 045(924)1050
 FAX 045(924)1055

件名：旧農業総合研究所本館ボイラー保温材及び変圧器絶縁油等調査
 分析項目：アスベスト

項目 試料名	アスベスト		
	クリソタイル (%)	アモサイト (%)	クロシドライト (%)
ボイラー保温材	不検出	4.8	不検出
	以	下	余
			白
備考	1. 分析方法：基安化発第0622001号(H17.6.22) 「建材中の石綿含有率の分析方法について」による。 2. 不検出：不検出とは、含有量が1%以下で、X線回折計には 検出されなかったことを示す。		

測定結果報告書

神奈川県知事 殿

株式会社オオスミ
代表取締役 大角 武志
環境計量証明機関 神奈川県 18
作業環境測定機関 14-018
横浜市瀬谷区五真目町20番地17
TEL 045(924)1050

空气中アスベスト濃度測定の結果を次のとおり報告いたします。

件名：旧農業総合研究所本館ボイラー保温材及び変圧器絶縁油等調査業務の委託

測定日：平成18年3月24日

	測定地点	測定時刻	測定結果(単位:f/L)
1	本館1階	14:12 ~ 16:12	0.19 未満
2	地下室内	14:10 ~ 16:10	0.19 未満
3	以下余白		
4			
5			
6			
備考 天候：曇り ※アスベスト繊維数濃度の単位「f/L」は、空気1リットル中の繊維本数を表す。			

空气中アスベスト濃度測定の概要

○ 測定方法

空气中のアスベスト濃度の測定は、下記を参考に行なった。

- ・ アスベストモニタリングマニュアル（改訂版）
（環境庁大気保全局大気規制課 平成5年12月）
- ・ 公共建築改修工事標準仕様（建築工事編）
（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 平成16年版）
- ・ 作業環境測定ガイドブック
（厚生労働省安全衛生部）

アスベスト粉じんの捕集は、オープンフェイス型ろ紙ホルダに装着したメンブランフィルタ（平均孔径0.8μm）を用い、ローボリウムエアサンプラによるろ過捕集方法にて行なった。

アスベスト繊維の計数は、捕集したフィルタをシュウ酸ジエチル法にて透明化した後に、倍率400倍の位相差顕微鏡を用いて行なった。

計数の対象は長さ5μm以上かつ幅3μm未満で長さとの比が3:1以上の繊維状物質とし、繊維状物質が認められた場合には顕微鏡の位相差装置を解除して生物顕微鏡に変え、見えなくなるか又は見えにくくなったものをアスベスト繊維とした。

測定の内容は下表を標準とし、設定した。

メンブランフィルタの直径	25 mm
試料の吸引流量	5 L/分
試料の捕集時間	120 分
位相差顕微鏡の視野面積	0.196 mm ²
計数視野数	50視野、若しくは繊維数の合計が200本まで
定量下限	0.5 f/L

○ アスベスト濃度の算出式

アスベスト繊維数濃度は下記の式を用いて算出した。

$$\text{繊維数濃度 } C_f = \frac{A \times N}{a \times n \times V}$$

C_f : 繊維数濃度 (f/L)

A : 採じんした有効ろ過面積 (mm²)

N : 計数繊維数 (f)

a : 顕微鏡で計数した1視野の面積 (mm²)

n : 計数視野数

V : 吸引量 (L)

○ 空气中のアスベスト濃度について

気中アスベストに関する濃度基準は、大気汚染防止法（昭和43年法律第97号）により特定粉じん発生施設に係る隣地との敷地境界における大気中の濃度の許容限度（規制基準）として、10 f/Lが定められている。

本調査対象施設は特定粉じん発生施設ではないが、参考として本調査結果を敷地境界基準10 f/Lと比較すると、各地点の値は低く満足するものとなっている。

また、環境省が平成7年度に実施した一般大気環境中のアスベストモニタリング調査の結果では、商工業地域が0.04~1.28 f/L、住宅地が不検出~1.76 f/L、幹線道路周辺地域が不検出~1.96 f/Lと報告されている。

この値と本調査結果を比較すると、一般環境中の濃度分布の範囲内に含まれており、異常は認められていないと考えられる。

アスベスト濃度測定記録

件名: 旧農業総合研究所本館ボイラー保温材及び変圧器絶縁油等調査業務の委託

測定場所: 旧農業総合研究所

住所: 神奈川県平塚市寺田縄字中筋496-1

測定日: 平成18年3月24日

測定地点	測定時刻	吸引流量 (L/分)	吸引量 (L)	フィルタ 直径 (mm)	有効ろ過 面積 (mm ²)	計数 視野数	計数 繊維数	繊維数濃度	
								計算値 (f/L)	報告値 (f/L)
1 本館1階	14:12 ~ 16:12	5	600	25	415	50	0	0.00	0.19 未満
2 地下室内	14:10 ~ 16:10	5	600	25	415	50	0	0.00	0.19 未満
3 以下余白									
4									
5									
6									
備考 天候: 曇り ※アスベスト繊維数濃度の単位「f/L」は、空気1リットル中の繊維本数を表す。									